



I.Terashima

THE EPSOM CUP

第41回 エプソムカップ (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 43,000,000円 17,000,000円 11,000,000円 6,500,000円 4,300,000円
付加賞 637,000円 182,000円 91,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 3歳53¹/₂kg以上57¹/₂kg、牝馬2¹/₂kg減、2023.6.10以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬3¹/₂kg増、
牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2¹/₂kg増、牝馬限定GⅡ競走またはGⅢ競走(牝
馬限定競走を除く)1着馬1¹/₂kg増、2023.6.9以前のGⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2¹/₂kg増、牝馬限定G
Ⅰ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1¹/₂kg増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.6.9 東京 曇・良 芝1800m (国産) (特指)

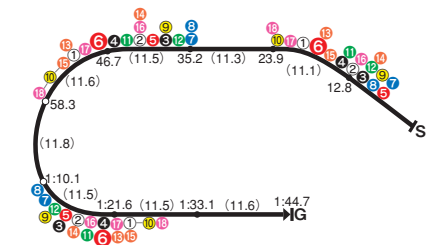
着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑥	レーベンスティール	牡	4	59	C.ルメール	1:44.7	5-7-7	33.7	482(-4)	3.6 ①	田中博康(美浦)	115
2	⑭	ニシノスベニア	牡	5	57	田辺裕信	2	3-6-5	34.1	524(-8)	19.3⑨	上原博之(美浦)	107
3	⑩	シルトホルン	牡	4	57	吉田 豊	2	2-2-2	34.9	470(-6)	12.0⑦	新開幸一(美浦)	104
4	⑪	サイルーン	騾	5	57	岩田望来	アタマ	8-9-9	34.1	472(+2)	5.5②	堀 宣行(栗東)	104
5	⑮	アルナシーム	牡	5	57	横山典弘	アタマ	7-3-3	34.6	440(-6)	9.5④	橋口慎介(栗東)	
6	⑮	グランディア	騾	5	57	三浦皇成	ハナ	10-10-9	34.1	482(+2)	9.9⑤	中内田充正(栗東)	
7	⑫	セルバーグ	牡	5	58	丸山元氣	1/2	1-1-1	35.3	438(-4)	45.4⑩	鈴木孝志(栗東)	
8	⑫	グランスラムアスク	牝	5	55	御神本訓史	クビ	12-16-15	33.7	466(+4)	223.7⑫	矢作芳人(栗東)	
9	④	ヴェルトライゼンデ	牡	7	58	戸崎圭太	アタマ	8-8-7	34.4	492(-6)	7.2③	池江泰寿(栗東)	
10	①	トゥデイイズザデイ	牡	5	57	津村明秀	1/2	4-4-3	34.8	468(±0)	10.5⑧	池江泰寿(栗東)	
11	③	ルージュリナージュ	牝	5	55	丸田恭介	ハナ	12-14-13	34.0	446(-2)	12.5⑥	宗像義忠(美浦)	
12	④	カレンシュトラウス	牡	7	57	北村宏司	クビ	12-10-11	34.2	522(+4)	119.5⑪	平田 修(栗東)	
13	⑦	マイネルケレリウス	牡	4	57	石川裕紀人	ハナ	17-17-17	33.8	422(-6)	26.0⑩	奥村 武(美浦)	
14	②	ノースザワールド	牡	6	57	菅原明良	1	10-10-11	34.5	490(±0)	63.2⑩	斎藤 誠(美浦)	
15	⑤	タイムトゥヘヴン	牡	6	57	北村友一	1 1/2	17-13-13	34.4	484(-4)	42.4⑪	戸田博文(美浦)	
16	⑧	ワールドウィンス	騾	7	57	内田博幸	1/2	15-17-18	34.1	458(+2)	267.5⑫	笹田和秀(栗東)	
17	⑨	レッドランメルト	牡	5	57	T.オシエ	クビ	15-14-15	34.5	520(+2)	107.0⑪	国枝 栄(美浦)	
18	⑬	ラクマーダ	牡	4	57	石橋 脩	クビ	5-4-5	35.3	492(+2)	50.7⑫	千田輝彦(栗東)	

単勝⑥360円(1¹/₂) 複勝⑥180円(1¹/₂) ⑦610円(9¹/₂) ⑩360円(8¹/₂) 枠連③-⑧1,150円(3¹/₂)

馬連⑥-⑦4,220円(18¹/₂) ワイド⑥-⑦1,650円(22¹/₂) ⑥-⑩1,160円(12¹/₂) ⑦-⑩3,160円(36¹/₂)

馬単⑥-⑦5,860円(19¹/₂) 3連複⑥-⑦⑩13,880円(48¹/₂) 3連単⑥-⑦⑩62,310円(205¹/₂)

5重勝④④④①⑥473,100円(997票) 対象競走：京都10R/東京10R/函館11R/京都11R/東京11R



通過タイム： 600m 800m 1000m
35.2 - 46.7 - 58.3 上り： 800m 600m
46.4 - 34.6

アラカルト

- ・C.ルメール騎手はレイエンダで制した19年に続くエプソムC2勝目。JRA重賞は本年3勝目、通算150勝目。なお、騎手のJRA重賞通算150勝は史上5人目、現役3人目
- ・田中博康調教師はエプソムC初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算7勝目
- ・リアルスティール産駒はJRA重賞通算3勝目
- ・勝ちタイム1:44.7はレースレコード
- ・4歳馬の勝利は22年ノースブリッジに続く通算25回目

レーベンスティール Lebensstil

牡 鹿毛 2020.3.8生
北海道日高町 広富牧場生産
馬主・南キャロットファーム 美浦・田中博康厩舎
馬名意味・生き様(独)。父名、母名より連想。生き様が魅了する馬になるように

マギーグズNZ系 F5

リアルスティール 鹿毛 2012	ディーブインバウト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	ラヴズオンリーミーUSA 鹿毛 2006	Storm Cat Monevassia
トウカイライフ 黒鹿毛 2007	トウカイテイオー 鹿毛 1988	シンボリルドルフ トウカイナチュラル
	ファヴォリ 青鹿毛 1996	リアルシヤダイUSA ペイリフスイータ

5代までのインブリード：Hail to Reason S 5×M 5 Northern Dancer S 5×M 5

INTERVIEW

高橋三千代氏(広富牧場)

日本の古い血統馬の活躍は嬉しいことです

ルメール騎手が乗ってから落ち着きを取り戻した姿をみて、これならという思いでレースを迎えられました。母馬は良くも悪くもトウカイテイオーらしさを持った馬で、子供たちもそれを受け継いでいます。日本の古い血統を持つ馬の活躍は嬉しいこと。今回の勝利はこの血統の馬に携わってくださった歴代の調教師や騎手の方々のお陰でもあってと思っています。

Photostud



の舞台での活躍も見込まれる。頂点

父リアルスティール

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首17戦4勝(ドバイターフ^{G1}、毎日王冠^{G1}、共同通信杯^{G1}、皐月賞^{G1}2着、菊花賞^{G1}2着、天皇賞(秋)^{G1}2着、神戸新聞杯^{G2}2着、スプリングS^{G1}2着、ドバイターフ^{G1}3着)、19年から日、豪で供用〔代表産駒〕**フォーエバーヤング**(全日本2歳優駿^{J1}、UAEダービー^{G2}、サウジダービー^{G3}、JBC2歳優駿^{J1}Ⅲ、ケンタッキーダービー・米^{G1}3着)、**レーベンスティール**(本馬)、**オールリルフェ**(デリー杯2歳S^{G1})、**ノイジーボーイ** Noisy Boy(タロクS・豪^{G2}2着)、**チカッパ**(兵庫チャンピオンシップ^{J1}Ⅱ2着)、**アレンジャー**(アーリントンC^{G1}2着)、**ドナベティ**(ファンタジーS^{G1}2着)、**ヴェローチェエラ**(京都新聞杯^{G1}3着)、**トーホウガレオン**(シンザン記念^{G1}3着)、**アグラシアド**(スイートピーS・L3着)

母トウカイライフ

北海道日高町 広富牧場生産 中央35戦3勝、地方3戦1勝
ロトヴィンテージ(15 牡父ヴァーミリアン)中央3戦0勝
サーチュイン(16 牝父クロフネUSA)中央17戦1勝、地方17戦1勝
ルーチェデラヴィタ(17 牝父キズナ)中央24戦2勝(コスモス賞^{OP})
ブラックライフ(18 牝父ブラックタイド)中央12戦0勝、地方16戦1勝
レーベンスティール 本馬(20 牡父リアルスティール)中央8戦4勝(セントライト記念^{G1}、エプソムC^{G1}、ラジオNIKKEI賞^{G1}3着)、香1戦0勝
獲得総賞金127,696,000円

ティオームサシ(22 牡父ナダルUSA)中央1戦0勝 ⑩

(24 牡父モーリス)

※19(前年種付せず)、21(流産)、23(生後直死)

祖母ファヴォリ

北海道門別町 広富牧場生産 中央3勝(蔵王特別)、16年用途変更
グラマトフィラム(04 牝父クロフネUSA)中央2勝
カンタカ(05 牝父ジャングルポケット)中央0勝、地方10勝
トウカイライフ(07 前出)
オールマイウェイ(10 牡父サクラバクシンオー)地方7勝(かきつばた賞、桂樹杯2着、せきい賞3着、はまなす賞3着)

母の父トウカイテイオー

北海道新栄産 中央9勝(ジャパンC^{G1}、日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、有馬記念^{G1})
〔BMS代表産駒〕**ブレイブスマッシュJPN** Brave Smash(マニカトS・豪^{G1}、フューチャリティS・豪^{G1}、サウジアラビアロイヤルC(重賞)、父トーセンファントム)、**ヴィーヴァヴォドカ**(フラワーC^{G1}、父ダンスインザダーク)

鮮やかな差し切りで2つめの重賞制覇

年間に22競走が編成されている別定GⅢのなかでも、近年のエプソムCは新興勢力の活躍が目立ち、2017年のダッシングブレイズ以降は7年連続で重賞未勝利の新星がこのレースで初のタイトルを手にしてきた。とはいえ今年は、昨秋のセントライト記念の覇者レーベンスティールが1番人気の支持に依りて完勝。不本意な結果に終わった前2戦の汚名をすすぎ、潜在能力の高さを改めて証明した。

同舞台の前走・メイSで3着に逃げ粘ったシルトホルンがまずは先手を窺ったものの、フルゲートの大外枠から飛び出してスピードに乗ったセルバークがこれをかわし、主導権を奪取。緩

2番手に控えたシルトホルンは直線に向くと馬場の四分どころへ進路を取ってスパット、坂の上りで力尽きた逃げ馬をかわし、先頭に躍り出る。しかし4コーナーから持ったままの手心えで前に迫ったレーベンスティールは、

ルメール騎手の仕掛けに呼応して抜群の末脚を発揮。シルトホルンを難なく抜き去り、離れた好位から2着に追い込んだニシノスベニアの反撃も寄せ付けずに完璧なフィニッシュを決めた。

勝ちタイムの1分44秒7は従来の記録を0秒4上回るレースレコード。他馬より重い59kgの斤量も克服し、鮮やかな差し切りを決めたのだから、ここでは力が違っていた。新馬戦で惜敗クビ差2着を喫したソールオリエン

を2着に下し、昨秋のセントライト記念で重賞初制覇を果たした後は、香港ヴァーズ8着、4歳初戦の新潟大賞典も1着と精彩を欠いた本馬だが、始動戦をひと叩きされて本領を発揮。軌道修正を果たしたゴールの先には、